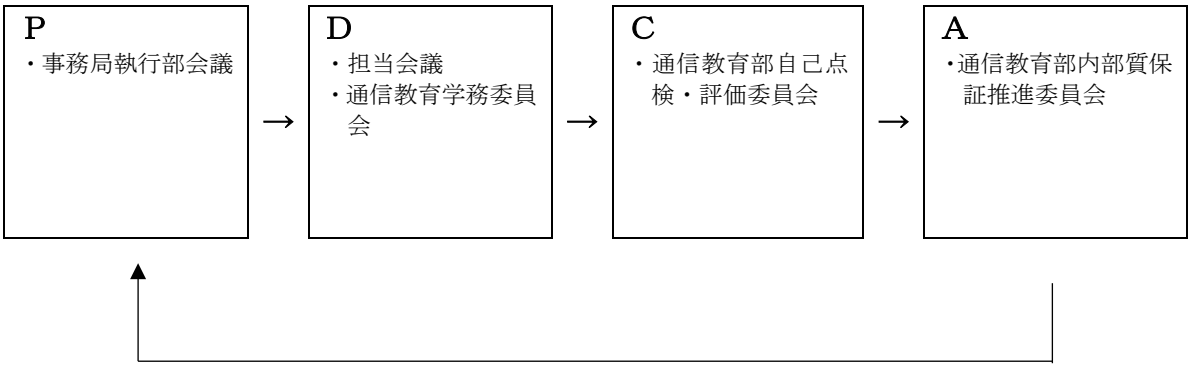
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　通信教育部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部自己点検・評価委員会を設置し，内部質保証システムの適切性について検証し，改善・向上に取り組むこととしている。さらに，ＦＤ活動で実施内容の共有を行っている。

事例として，令和３年度大学評価（認証評価）追評価結果における提言として，法学部（通信教育課程）及び商学部（通信教育課程）の教育課程の編成と実施に関する考えが不明確であるとの指摘を受けたことに伴い，通信教育部内部質保証推進委員会を開催し，法学部（通信教育課程）及び商学部（通信教育課程）の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を改正した。

改正に当たっては，法学部及び商学部の通学課程における本方針の策定完了後，本通信教育部における学務委員会にて内容の共有を図った後，本方針の見直し及び検討を行い，諸会議で承認を得た。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

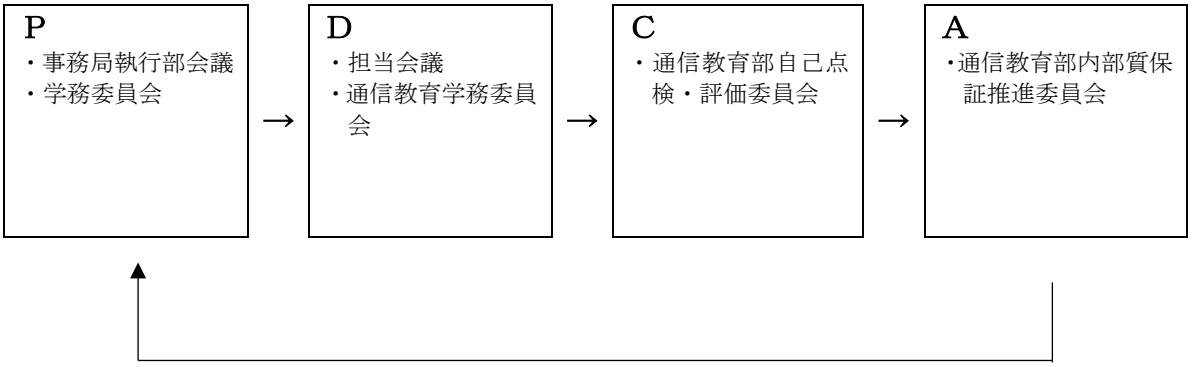
令和６年度大学評価（認証評価）結果，基準２の概評において「収容定員増加に伴う学則変更の際，未充足が発生し遵守事項の指摘を受けた」とされている。この点については，今後，同様の事態が生じないよう，例えば，通信教育部内部質保証推進委員会を中心に，点検・評価時の確認体制を強化するよう改善が求められる。さらに，通信教育部においては，外部評価を定期的に実施していない。外部の専門的視点を取り入れることは，自己点検・評価の客観性や妥当性を高めるために不可欠であることから，例えば，通信教育部内部質保証推進委員会を中心に，外部評価を計画的に実施する仕組みを構築するよう検討することが望まれる。

引き続き諸会議・委員会で検討を行っていく。

事務局執行部会議及び担当会議・通信教育学務委員会において，協議・審議を行い，改善を行っていくとともに，通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会で実施した改善の検証に取り組んでいく。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部では，教育研究組織に係る学科の新設や改組等について，事務局執行部会議及び学務委員会等で計画を立案，その後担当会議及び関係４学部の学部長や学務委員が加わった，教授会に相当する通信教育学務委員会で審議を行っている。

その後，必要に応じて通信教育部自己点検・評価委員会や通信教育部内部質保証推進委員会において検証を行い，組織運営の改善・向上につなげている。

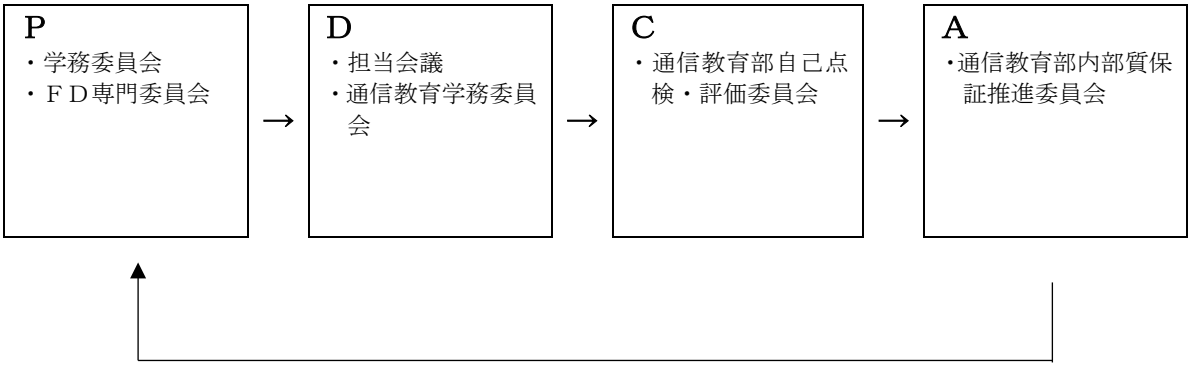
また，教育組織の見直しを直接担う組織ではないが，ＦＤ専門委員会による，授業評価アンケートの内容確認，教員へのフィードバック，シラバスの第三者チェックによる授業内容の適切性の確認及び教員相互の授業参観等により，教育組織の見直しの必要性を検討するための現状及び改善点等の確認を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

通信教育部では，教育課程及びその内容，教育方法の適切性を確保するため，明確な基準と組織体制に基づき，定期的な自己点検・評価を実施している。点検・評価は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性，教育課程の体系性・水準，授業方法の妥当性及び学生の学修効果との整合性を主な基準とし，ＦＤ専門委員会が中心となって実施している。授業評価アンケート，履修状況や成績分布，課題提出状況及びメディア授業の視聴履歴など学修行動データに加え，資格取得状況や進路状況等の情報を活用し，多面的に点検を行っている。

通信教育部では，教育課程及びその内容，教育方法の適切性を確保するため，大学基準協会が定める大学基準，大学通信教育設置基準，本学の内部質保証に関する方針及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を基準として，明確な組織体制の下，定期的な自己点検・評価を実施している。

点検・評価は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性，教育課程の体系性・水準，授業方法の妥当性及び学生の学修成果との整合性を主な観点とし，ＦＤ専門委員会を中心に毎年度実施している。加えて，授業評価アンケートは各スクーリング終了後に実施し，その結果を踏まえた検証を年度内に行っている。

授業評価アンケート結果，履修状況や成績分布，課題提出状況及びメディア授業の視聴履歴等の学修行動データに加え，資格取得状況や進路状況等の情報を活用し，多面的に点検を行っている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の履修状況等から，対面授業の科目重複や受講機会不足が明らかとなったことを受け，スクーリングの開講期を拡充し，社会人・遠隔地学生の学修機会を拡大した。また，履修動向や資格取得状況を踏まえ，一部科目の新設を行うなど，教育課程の体系性強化にも取り組んでいる。

教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たっては，上記１のＰＤＣＡサイクルに基づき取り組んでいる。

まず，Ｐ（計画）段階において，学務委員会及びＦＤ専門委員会が教育課程の点検方針及び重点課題を設定する。

次に，Ｄ（実行）段階として，担当会議及び通信教育学務委員会において授業運営や履修状況の実態把握を行う。

Ｃ（点検・評価）段階では，通信教育部自己点検・評価委員会が各種データを基に検証を行い，課題を整理する。

Ａ（改善）段階において，通信教育部内部質保証推進委員会が改善方針を決定し，各委員会へ改善指示を行う。

例えば，学生の履修状況等の分析から対面授業の科目重複や受講機会不足が課題として把握されたことを受け，Ａ段階の決定に基づきスクーリング開講期の拡充を実施し，社会人・遠隔地学生の学修機会を拡大した。また，履修動向や資格取得状況を踏まえ，一部科目の新設を行い，教育課程の体系性の強化を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，概評で「通信教育部では，履修系統図が教育研究上の目的に紐づいているため，学位授与方針や教育課程の編成・実施方針に基づいた科目系列の配置を明確にすることが望まれる」と指摘されていることから，対応が求められる。

令和６年度全学自己点検・評価結果において，通信教育部の履修系統図と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との対応関係が十分に明確化されていないとの指摘を受け，教育課程の体系性と透明性を一層高める取組を進める。学生にとって，到達目標との関係がより理解しやすくなるよう，シラバス作成時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を必ず記載する項目を新設し，全科目で明確化を図る。さらに，ＦＤ専門委員会・学務委員会を中心に，履修系統図・科目系列・シラバスの点検を定期的に行い，教育課程の編成と運用が学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）と一貫して機能するようＰＤＣＡサイクルを強化する。

また，これらを踏まえ，Ｐ（計画）段階として，学務委員会及びＦＤ専門委員会において，履修系統図と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との対応関係を明確化する方針を策定した。

Ｄ（実行）段階では，担当会議及び通信教育学務委員会において，履修系統図の再整理及びシラバスへの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）関連項目の明示化を進めている。

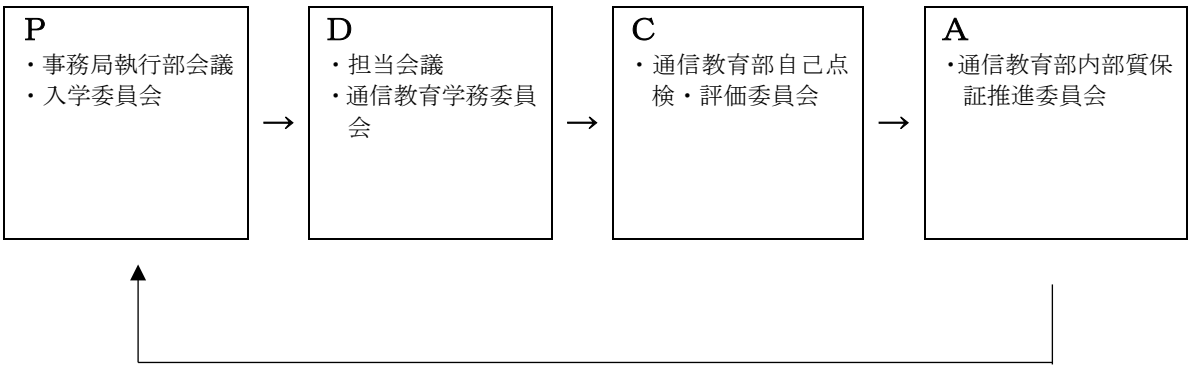
Ｃ（点検・評価）段階においては，通信教育部自己点検・評価委員会が整理状況を確認し，対応関係の妥当性を検証する。

Ａ（改善）段階では，通信教育部内部質保証推進委員会が検証結果を踏まえ，履修系統図の改正及び公表方法の改善について最終的な改善方針を決定する。

このように，履修系統図・科目系列・シラバスの整合性をＰＤＣＡサイクルに基づき段階的に整理し，教育課程の体系性及び透明性の向上を図る。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部では，入学試験を実施していない分，出願書類を入学課職員（３名）で確認後，専任教員（１名）により書類審査を行っている。書類等に不備や問題がない場合は，学長からの入学許可を得るために，担当会議及び通信教育学務委員会で入学区分ごとの入学者受入れについて審議した上で，本部内申を行っている。

しかし，出願書類の１つである「志望理由書」については，出願方法として Web 出願が導入された現在も，手書きで記入することを必須としているため，志願者の字の乱れや書かれた志望理由に個人の思想や偏見などが散見する場合，学務担当による審査の上，再提出を義務付けている。さらに，再提出された志望理由書の内容に改善が見られず，本部の定める学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に反する場合は，学務担当の判断により入学委員会や事務局執行部会議に上程し，担当・通信教育学務委員会まで審議することで，最終的な入学の許可又は不許可を決定している。

上記のように学生の受入れに関しては，入学委員会及び事務局執行部会議が中心となり，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいた学生募集計画や受入れ基準の策定（Plan）を行っている。これに基づき，実際の運用（Do）としては，入学課職員及び専任教員による書類審査を経て，担当会議及び通信教育学務委員会において入学区分ごとの審議と学長への内申を実施している。

この運用実態に対し，通信教育部自己点検・評価委員会が入学者推移のデータや編入学生の

単位認定の適格性及び配慮を要する学生への対応状況などを定期的に点検・検証（Check）を行い，その点検結果を受け，通信教育部内部質保証推進委員会において，学生募集活動の有効性や入学審査体制の妥当性を評価し，具体的な改善策の策定（Action）を行う。

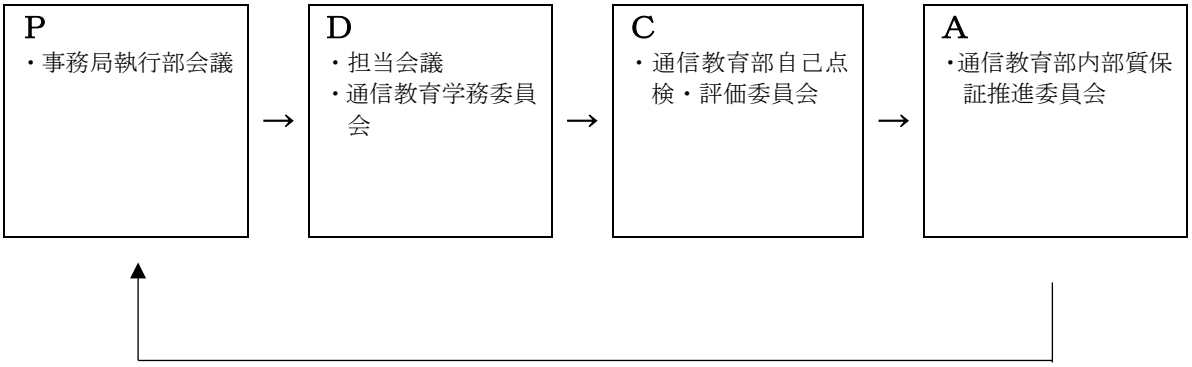
この評価結果と改善案は，再び入学委員会や事務局執行部会議へとフィードバックされることで，次年度の学生募集に対する戦略や入学審査基準の更新に活用するとともに，各組織がそれぞれの役割において改善・向上に取り組むことで，学生の受入れに関するＰＤＣＡサイクルを自律的に機能させ，効果的な入学者獲得と教育の質保証へとつなげている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織の適切性の検証は，自己点検・評価の対象となるが，関係４学部の学部長や学務委員が加わった，教授会に相当する通信教育学務委員会をはじめ，担当会議や学務委員会で検証している。また，前述のとおり，学務委員会の基にＦＤ専門委員会を組織し，教学活動のＰＤＣＡサイクルの一環として，報告，検証及び改善を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述では教職間の連携方法や協働の具体的成果（外部資金の採択実績，成果発信の改善例等）についての記述が確認できなかったため，改善が求められる。

外部からの幅広い人材登用や多様性確保の観点では，公募の実施や候補者選定プロセスの透明性確保が課題であり，改善が求められる。

年齢構成の具体的な数値や分布状況及び過去の採用実績の傾向が示されておらず，取組の効果や改善状況を定量的に検証することは難しいため，課題であり，改善が求められる。

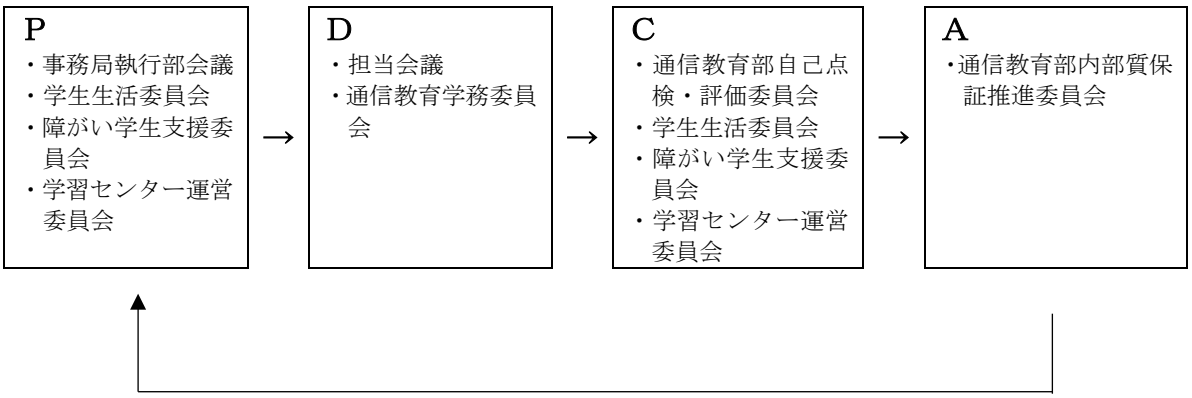
具体的な男女比の現状データや過去の採用実績，偏り是正に向けた具体的手段についての記

述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不十分であるため，改善が求められる。

通信教育部における教員人事に当たっては関係４学部との連携が必須となることから，関係４学部に依頼する際，通信教育部内の専任教員のバランス等を考慮した人材を推薦いただくよう，より関係４学部と連携を密に図っていく。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

＜合理的配慮対応＞

学修の支援を含む学生支援については，令和７年２月に「学生・学修支援センター」を新設したことで，学生支援体制（学修相談，生活相談等）の充実を図っている。これにより，従前入学課が行っていた学修センター業務と学生課で行っている学生相談，学生支援室を一本化することが可能となり，目的や年齢の異なる学生，居住地や多様な生活スタイルを持つ学生に対し，それぞれのニーズに合わせた学生支援体制が改善された。

障がい学生支援委員会において，合理的配慮希望学生に対する支援内容を決定し，学生生活委員会においても，当該決定内容やその他の支援・対応が必要な学生の情報を共有することに加え，非常勤講師も含めた全教員にも共通認識を持ってもらうため，年々増加している配慮申請数や配慮相談数等の各種情報を講師控室にグラフとして掲出し，可視化することで更なる学生支援体制の充実を図っている。

また，学習センター運営委員会においては，９年ぶりとなる指導員研修会実施の検討がなされ，同年３月に実現することができたことにより，教職員との連携を深めるなどの改善がされた。

引き続き，各課，学生・学修支援センター，学習センターが連携することで，多様な背景を持つ学生や複雑な学修形態等により学修継続が困難な学生を含めた全ての学生に対し「教育の質の保証」及び「学修を受ける権利の確保」を行い，安定して授業を受けることができるよう環境を整えると同時に，社会や学生の生活環境の変化に伴う学生支援体制の強化を行うことで，「学生・学修支援センター」を中心に，更なる志願者数や卒業生数の増加，退学者数の削減を

目指し，学事，注意喚起，個別相談の実施情報等を発信しながら，窓口やオンライン，メール等による相談体制の充実を図る。

＜学生団体活動・学生イベント＞

学生団体活動や学生イベントに関する学生支援については，学生生活委員会，事務局執行部会議において，学生課内で点検した学生団体等が企画した活動や交流会及び部祭等のイベントに関する内容について検討をしている。その際，アンケート調査を実施するなど改善点を洗い出し，次年度に向けた企画・運営に活用している。

一例として，通信教育部祭（集夏祭）の実施については，学修環境の特殊性からも学生主体での運営が難しく，学生・職員のアンケート調査の結果，令和８年度から学生代表と各課職員にてワーキンググループを発足し，学生や教職員の負担を軽減するとともに，部祭実行委員を支える体制づくりに変更するなどの改善を行う予定である。

Ｐに記載の諸会議・委員会にて学生支援に係る事項の計画を行い，Ｄに記載の諸会議・委員会にて審議承認し，実施している。実施した施策について，通信教育部自己点検・評価委員会で検証（Check）及び通信教育部内部質保証推進委員会で改善（Action）に取り組んでいるが，通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会だけではなく，複合的な検証を行うために，学生生活委員会・障がい学生支援委員会・学習センター運営委員会においても検証を行う諸会議・委員会として機能を果たしている（Ｃに記載）。

学修の支援を含む学生支援については，令和７年２月に「学生・学修支援センター」を新設したことで，学生支援体制（学修相談，生活相談等）の充実を図っている。これにより，従前入学課が行っていた学修センター業務と学生課で行っている学生相談，学生支援室を一本化することが可能となり，目的や年齢の異なる学生，居住地や多様な生活スタイルを持つ学生に対し，それぞれのニーズに合わせた学生支援体制が改善された。また，学習センター運営委員会においては，９年ぶりとなる指導員研修会実施の検討がなされ，同年３月に実現することができたことにより，教職員と学習センター指導員との連携を深めるなどの改善がされた。また，現在は仮想空間（メタバース）等も試験的に導入し，学生対応の幅を拡大している。このような環境整備も同時に行っている。

＜合理的配慮対応＞

障がい学生支援委員会において，合理的配慮希望学生に対する支援内容を決定し，学生生活委員会においても，当該決定内容やその他の支援・対応が必要な学生の情報を共有することに加え，非常勤講師も含めた全教員にも共通認識を持ってもらうため，年々増加している配慮申請数や配慮相談数等の各種情報を講師控室にグラフとして掲出し，可視化することで更なる学生支援体制の充実を図っている。

今後も，各課，学生・学修支援センター及び学習センターが連携することで，多様な背景を持つ学生や複雑な学修形態等により学修継続が困難な学生を含めた全ての学生に対し「教育の質の保証」及び「学修を受ける権利の確保」を行い，安定して授業を受けることができるよう環境を整えると同時に，社会や学生の生活環境の変化に伴う学生支援体制の強化を行うことで，「学生・学修支援センター」を中心に，更なる志願者数や卒業生数の増加，退学者数の削減を目指し，学事，注意喚起及び個別相談の実施情報等を発信しながら，窓口やオンライン，メール等による相談体制の充実を図る。

＜学生団体活動・学生イベント＞

学生団体活動や学生イベントに関する学生支援については，学生生活委員会及び事務局執行部会議において，学生課内で点検した学生団体等が企画した活動や交流会，部祭等のイベントに関する内容について検討をしている。その際，アンケート調査を実施するなど改善点を洗い出し，次年度に向けた企画・運営に活用している。

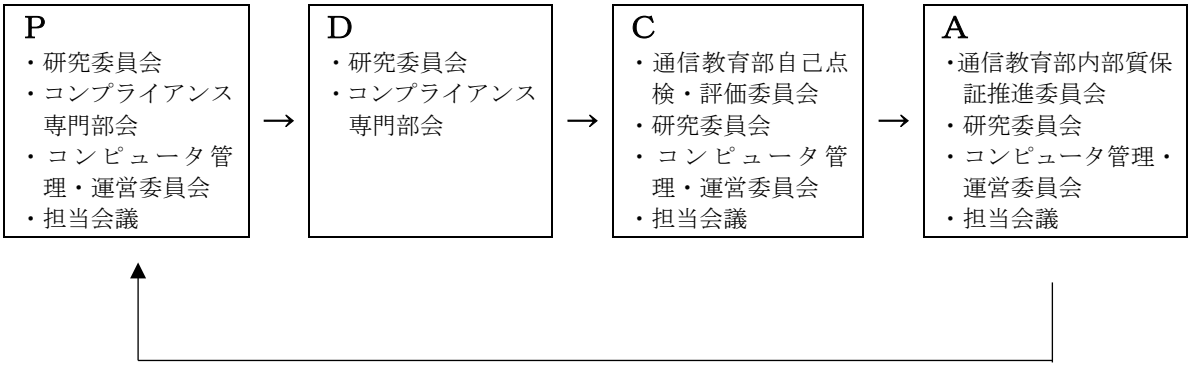
一例として，通信教育部祭（集夏祭）の実施については，学修環境の特殊性からも学生主体での運営が難しく，学生・職員のアンケート調査の結果，令和８年度から学生代表と各課職員にてワーキンググループを発足し，学生や教職員の負担を軽減するとともに部祭実行委員を支える体制づくりに変更するなどの改善を行う予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関わる事項については，「教育研究等環境整備に関する方針」に基づき，研究委員会，研究委員会コンプライアンス専門部会，コンピュータ管理・運営委員会及び担当会議等が，随時，審議・計画・実行・点検を行っている。また，定期的に，通信教育部自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に通信教育部内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

これまで通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，各委員会組織が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，コンピュータ管理・運営委員会では，各組織の共用パソコンの利用状況に鑑み，適切な情報管理及び情報倫理の遵守の視点から，個人情報保護や事故防止対策を強化する必要があると判断し，共用ＰＣに環境復元ソフト「V-Recover」を導入し，セキュリティを強化した。

また，研究委員会では，従来の個人研究費による研究活動支援に加えて，更なる支援の可能性を検討し，その結果，「通信教育部教育研究特別奨励金」を創設して，研究活動の充実を図った。

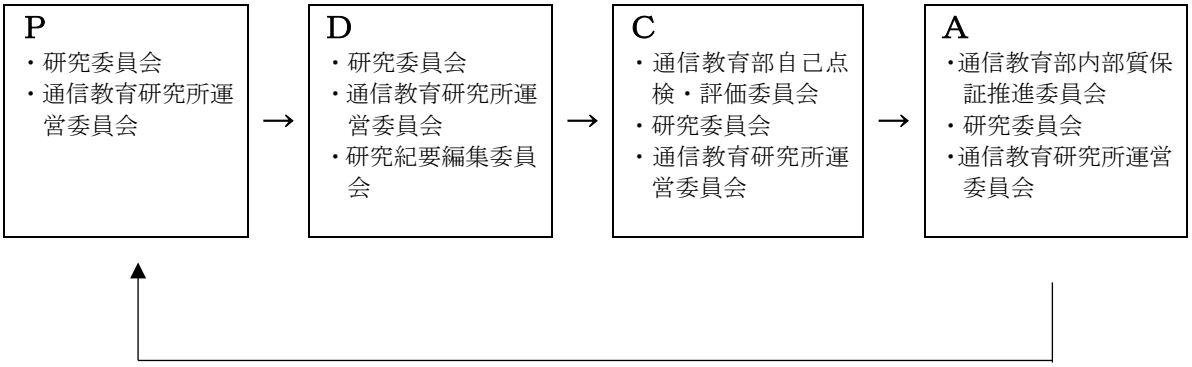
このように，各組織が計画と実行を繰り返しながら，定期的に点検・評価を行い，継続的な改善と向上に努めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献活動の一環として，大学の教育・研究成果を広く社会に開放し，地域社会の生涯学習の振興に貢献することを目的として，通信教育部研究紀要を年に１回発行し，ホームページに広く公開している。

この発行に当たっては，通信教育研究所運営委員会による計画，研究紀要編集委員会による原稿取りまとめ及び編集作業を行い，通信教育研究所運営委員会では完成原稿の点検・評価，必要に応じて研究紀要の執筆要領等の各要領の見直し，改善等を行っている。

また，定期的に，通信教育部自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に通信教育部内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

なお，これまで通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，通信教育研究所運営委員会が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，通信教育研究所運営委員会では，令和６年度に執筆要領等の各要領を点検し，見直しを行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし